

防球ネットができました!

改築中の守山小学校 臨時運動場

来年夏の完成を目標に、守山小学校の改築が行われています。守山民報 478号でお知らせしたように、改築中の2年間は運動場が全く使用できず、広場を小運動場として整備しましたが、とても狭く、また隣の墓地にボールが入ってしまうとの理由から、ボール運動が禁止されていました。子どもたちに出来る限り体を動かすことの出来る環境を、との声に応え、教育委員会はこの夏休み、「防球ネット」を設置しました。2学期からは、臨時運動場でドッジボールをすることが許可され、子どもたちに喜ばれています。先の6月議会で小牧議員が改善を求めていました。



これで安心してドッジボールが出来るよ~

今年の夏は、異常気象ともいえる猛暑とともに、日本の社会保障が問われる衝撃的なニュースがいくつも伝えられました。なかでも、大阪市西区の幼児虐待事件。食べ物を与えられずお腹を空かせながら、亡くなった一人の子ども。埼玉市の民家では76歳の男性が熱中症で亡くなり…。同居していた48歳の長男は、亡くなった親の年金が唯一の生活費で電気、ガス代が払えず、クーラーが使えなかったこと。今、日本の社会保障制度のあり方が根本的に問われています。守山市においても、大阪や埼玉のような事件が起こらないとも限らない…。日本共産党の小牧一美議員は、開会中の定例会一般質問で、セーフティネットとしての児童虐待相談と生活保護の充実について、市の姿勢をたずねました。

日本共産党小牧一美議員の一般質問から

セーフティネットの充実を

◆生活保護			
年度	相談件数	保護申請	開始件数
平成18年度	95	28	17
平成19年度	100	29	17
平成20年度	109	29	23
平成21年度	150	41	25
22年度(4~8月)	83		

埼玉市の48歳の長男は10年ほど前に生活保護の申請をして断られています。一度断られ、失意の中の生活。そして、今回の悲しい事件…。まさに、社会保障の根幹が問われています。小牧議員は実際に寄せられた相談を紹介しながら「生活保護の相談もしくは申請に来られる方は、本当に生活に困って相談に来られる失意の方々。しかし、守山市の対応は極めて冷たいと言わざるを得ない。福祉事務所の対応を、今一度問い直す必要がある」として、相談が急増している市の実態を問うとともに、生活困窮者への支援、ケースワーカーの体制充実について、市の姿勢を質しました。

これに対して健康福祉部長は「経済雇用情勢の悪化から、高齢者世帯と働くことが出来る世帯からの相談が増加していることが特徴。今後、相談件数が増加した場合は、体制の充実も考えている」と答弁しました。

暮らし、福祉守る市政が求められています

急増する相談件数への対応充実は急務

◆児童虐待				
	21年	20年	伸び率	子ども100人
	相談件数	相談件数		当たり虐待件数
守山市	91	54	169%	0.58
滋賀県	2791	2307	121%	1.09

児童虐待の相談件数は、全国的にも急増しています。厚生労働省の調査によると、全国201カ所の児童相談所が平成20年度中に受けた児童虐待の相談件数は、前年度比3.6%増の4万4,210件に達したことがわかりました。滋賀県でも昨年度は、対前年度比467件増、全体で2,802件の相談が寄せられたということです。子ども人口100人あたりになると1.09件となり、初めて1%をこえる深刻な事態となっています。

小牧議員は、県の相談件数が10年間で約4倍に増加していることをふまえ、守山市の実態と体制の充実、県との連携強化について、市の姿勢を質しました。これに対して健康福祉部長は「養育放棄に加え、身体的虐待も増えている。ケースの困難化が進み、児童相談所の専門的対応が必要な事例が増加している。体制の充実を県に働きかけたいと考えている。子ども課等とも連携を強化して相談・支援体制を充実させたい」と約束しました。

日本共産党
守山民報

守山市議会議員
こまき一美

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

TEL 584-3077
FAX 584-3466